

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	井村 亘 (****年**月**日)
本 籍	*****
学位(専攻分野)	博士(健康科学)
学位授与番号	甲第186号
学位授与日付	令和6年3月20日
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当
論 文 題 目	高校生版学級担任との日常会話尺度の開発
審 査 委 員	教授 矢野 博己 教授 難波 知子 教授 諏訪 英広 准教授 石田 実知子 (保健看護学専攻)

博士論文内容の要旨

本博士論文は、Brian Lらによって提唱された Relational Regulation Theory (サポート期待と精神的健康の関連を説明する理論 (2011), 以降 RRT と記す) を援用して、「高校生版学級担任との日常会話尺度」を開発することを目的とした。方法は、尺度開発のプロトコルに沿って、高校生を対象とした4つの調査が実施された。第1調査 (n=413) では記述データの内容分析から18の項目が抽出された。これらを尺度の項目プールとして内容的妥当性を確認した第2調査 (n=923) では、正確二項検定により10項目が抽出され、さらに研究者間の協議による妥当性の検討により【将来像】、【クラスのこと】、【部活動】、【冗談事】、【人生経験】の5項目を選定した。第3調査 (n=1,394) では、これらの項目で構成される1因子モデルを仮定した「日常会話尺度(試作版尺度)」を作成し、構造的妥当性と内的一貫性、および因子不変性が確認された。最後に、第4調査 (n=1,688) では、試作版尺度の仮説検証による妥当性が確認された。以上より、「高校生版学級担任との日常会話尺度」が開発された。

博士論文審査結果の要旨

本論文では、「高校生版学級担任との日常会話尺度」の開発を目的として、尺度原案の作成、尺度原案の内容的妥当性検証、尺度の信頼性・妥当性の検証の段階を踏んだ研究方法により、概念的次元性を備え、且つ、1因子5項目からなる頑健で、能率性の高い尺度の開発がなされたことを確認できた。研究結果の有用性としては、本尺度を用いて、担任との日常会話頻度が高校生の心理行動に与える影響や、担任との日常会話頻度の学年差・学級差、個人差などの検討に活用できることである。これらの検討によって得られる知見は、学校精神保健における、高校生に対する担任による実用可能性の高い一次予防策の考案に繋がるものと認められる。また、わが国で初めて RRT の検証につながった新規性の高い研究としても認められた。この理論は、国外において、大学生や一般人などの幅広い対象者に対して行われ、支持されていることから、今後は高校生のみならず、あらゆるライフサイクルにおいて汎用できる可能性に富んでおり、健康の維持増進に寄与することを目的とする健康科学の学術的な発展に貢献できるものと判断された。以上より本専攻の学位論文審査基を満たしていることが確認された。